

## 第1回エメックス会議挨拶

### 兵庫県知事 貝原俊民

高円宮殿下のご臨席のもと、北川環境庁長官、近藤会長さん、ロング環境局長さん、マノス統括官、武智水質保全局長、それに瀬戸内海の知事、市長の皆様を初めとするご来賓の皆様、そしてご参加いただきました多数の皆様、閉鎖性海域の諸問題を考える初の試みでありますEMEC S'90を開会することができますことは、私たちにとりまして大きな喜びとするところであります。国内外からご参加いただきました皆様を、瀬戸内海環境保全知事・市長会議を代表して、心から歓迎申し上げます。



瀬戸内海は、古くから交通の大動脈として文化の伝承や教育、産業、経済などあらゆる分野の発展に貢献し、連綿として人々の営みを育み、支えてまいりました。この恩恵を将来にわたって享受するため、その天与の美しさと清らかな自然の保全、創造を共通の責務として、私たち瀬戸内海環境保全知事・市長会議は今日まで懸命な努力を続けてきたところであります。そして今、瀬戸内海は新しく3つの本州と四国を結ぶ連絡橋の整備が進められる中、新しい飛躍が期待されている状況にありますが、この海を3,000万人の瀬戸内住民のみならず、国民共有の資産として確保し、来るべき新しい世紀に向かって、互いに快適な環境を創造し、内外に誇り得る地域に再生することは、まことに緊要の課題となっております。

瀬戸内海同様、世界の多くの閉鎖性海域も人類の営みに大きな恵みを与えて、数々の文化を育み、そして今、困難な環境問題を抱えているのではないかと拝察をいたしております。閉鎖性海域の優れた環境は、我々の世代によって享受されるばかりでなく、将来の世代にも引き継がれていかなければなりません。EMEC S'90において、世界各海域についての情報や経験に学び合い、環境の保全と適正な利用に係る諸問題の対応の道を探求していけることを切望いたしております。

我々知事・市長会議は、今朝の総会において今後の瀬戸内海の環境の保全と創造に向けて、EMEC S'90の成果を生かしていくため、瀬戸内海研究会議の組織化を支援していくことに合意いたしました。瀬戸内海が抱えている諸問題に取り組んでいく上でも、EMEC S'90が実り多い機会となることに大きな期待を寄せております。昨春来、この会議の実施に向けて、近藤会長を初め実行委員の方々、その他多くの方々の努力が積み重ねてまいりました。また会議の成功に向けて、多くの方面からご支援を得たところであります。ここに改めて感謝の意を表し、会議の開会に当たってのあいさついたします。ありがとうございました。